ごあいさつ

チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）は、子ども達をめぐる諸問題、特に育児・保育・教育に関係して広くインターネット上で情報交換し、解決の道を研究する「子ども学研究所」として、日本語サイトを1996年に設立しました。国外との情報交換のために、英語サイト（1996年～）、中国語サイト（2005年～）も活動しています。また、インターネット上だけでなく、中国を中心とした東アジアとの子ども学交流プログラムなど、子ども学を柱にした研究活動を開催しております。

子どもの問題に関心をお持ちの方なら、どなたでもまず CRN にアクセスしていただきたい。年齢や性別はもちろんのこと、研究に重要な学問の専門分野が何であってもよいのです。いろいろな学問分野の方々が参加する学際性こそが子ども学であり、CRN にとっては重要なのです。また、親御さんのような、子育ての現場の方にもご発言を期待しています。それが問題解決に重要なヒントを与えることが多いからです。

検討する問題が何であるかは、アクセスされる方々によって決まります。どうかご関心のあるテーマをご発表ください。共に子どもにとってより良い解決法を探りましょう。

チャイルド・リサーチ・ネット所長
小林 登

活動履歴

1996
- 日本語・英語サイトオープン
- シンポジウム「マルチメディア社会の子どもたち」

1997
- シンポジウム「中高生のデジタルな友達づくり」
- ジェーン・グドール博士講演会
- ジェイ・ベルスキー博士講演会

1998
- 英語サイトリニューアル
- 国際シンポジウム「メディアは子どもをどう育てるのか?」
- ジェーン・グドール博士講演会
- CRNサイト「WEBデザインアワード」銀賞受賞

1999
- 公開座談会「学級崩壊はしつけでくいとめられるのか?」
- 国際プレイショップ「PLAYFUL」

2000
- 公開座談会「「学校」と「家庭」を結ぶもの」
- プレイショップ「Feel the Media」
- 国際シンポジウム「21世紀の子育てを考える」

2001
- プレイショップ「ふゆものがたり～プレイフルストーリーをつくろう」など
- 研究拠点「ながやまチーきち」開設（～2002年）
- 音のワークショップ（～2003年）

2002
- CRN 実践保育研修会「保育の質を考える一心とからだを育む視点から」
- プレイショップ「カラフル王国で遊ぼう」など
- CRN メンバーサイトオープン
- 「子ども学研究会」発足（～2003年）

2003
- 日本語サイトリニューアル
- 「日本子ども学会」設立
- ワークショップ「こがねいメディアキッズ」（～2005年）

2004
- 「第1回子ども学会議」（「日本子ども学会」学術集会）
- チャイルド・サイエンス懸賞エッセイスタート
- 中国の子ども研究機関を訪問〔中国 北京〕

2005
- 中国語サイトオープン
- 「第2回子ども学会議」（「日本子ども学会」学術集会）
- 宋慶齢基金会の招聘を受け小林所長が講演〔中国 上海〕

2006
- 子どもの健康に関する学会にて「食育」をテーマに分科会を開催〔中国 長春〕
- 「第3回子ども学会議」（「日本子ども学会」学術集会）
- 中国政府主催のシンポジウムにて小林所長が講演〔中国 上海〕

2007
- CRN設立10周年記念国際シンポジウム開催
- 「第4回子ども学会議」（「日本子ども学会」学術集会）
- 第1回 東アジア子ども学交流プログラム開幕式〔中国 上海〕
- 第1回 東アジア子ども学交流プログラム集中講義・幼児教育展覧会開催〔中国 長沙〕

2008
- 日本語サイトリニューアルオープン

所 在 地
〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング15階 ㈱ベネッセコーポレーション 内

運営体制
所　　長　小林 登（東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長、子どもの虹情報研修センターセンター長）
顧　　問：石井 威望（東京大学名誉教授）
コーディネーター：劉 愛淳（ベネッセコーポレーション）
松本 留奈（ベネッセコーポレーション）

CRNは㈱ベネッセコーポレーションの支援のもとに運営されています。Benesse®

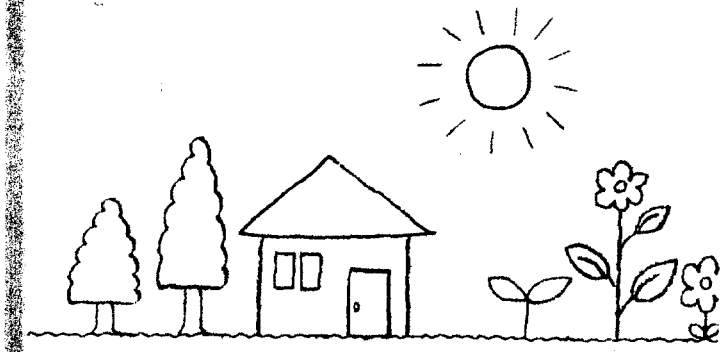
Welcome to

CHILD RESEARCH NET

チャイルド・リサーチ・ネット

チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）は、子ども学（Child Science）の研究機関です。

インターネットによるネットワークと、シンポジウム、講演、プレイショップなどの研究活動を通し、世界中の研究機関や研究者と交流しながら、子どもを取り巻く諸問題の解決に取り組んでいます。



CRN
チャイルド・リサーチ・ネット

の活動をご紹介します。

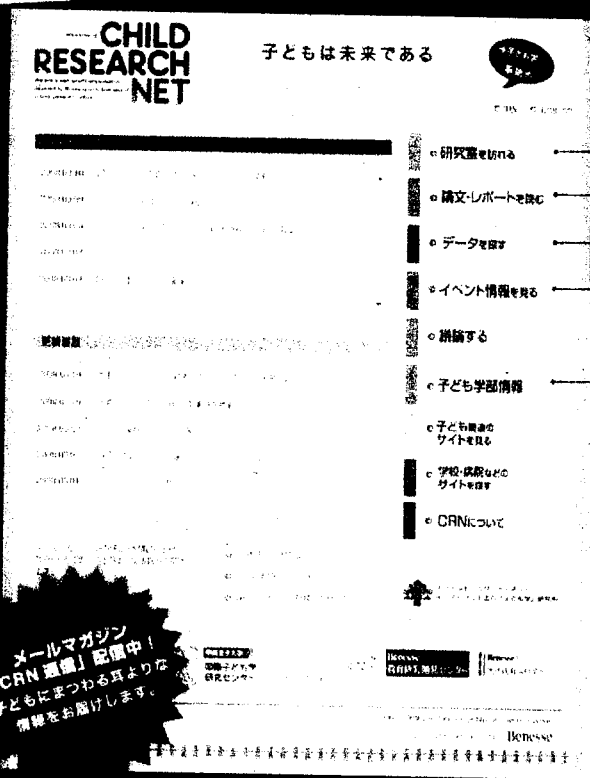
インターネットのネットワーク

従来の学問分野を越え学際的、国際的に、子どもに関する研究を進めようと、インターネットでのネットワークを構築しました。ここに集められた知見や問題解決のための知恵を使って、子どもを取り巻く諸問題を解決していきたいと考えています。

日本語・英語・中国語の三言語によるサイトには、子どもに関する研究成果や論文・レポート、データが掲載され、さまざまなテーマで議論する場も設けられています。

子どもたちの未来のために、みなさんからのアクセスをお待ちしています。

2008年3月27日、日本語サイトをリニューアルオープンしました!



研究室を訪れる
テーマごとに有識者が集まり、子どもに関する研究を進めています。その研究成果をご覧いただけます。

論文・レポートを読む
さまざまな分野の専門家から届けられた、子どもに関する論文・レポートをご覧いただけます。

データを探す
子どもに関する調査データをご覧いただけます。大部分のデータが、ダウンロード可能です。

イベント情報を見る
子どもに関するイベントをご紹介します。CRNが開催するイベントの予定・実施報告もご覧いただけます。

子ども学部情報
学部・学科名称に「子ども学」を掲げる、大学や短期大学に関する情報をご紹介します。

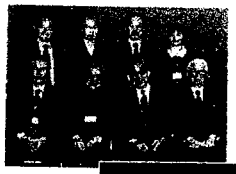
子どもたちをめぐる問題について、国境、学問の壁を越えた人々が集い、語り、考える場を作っています。テーマに合わせ、シンポジウム、講演会、講義、展覧会、ワークショップなど、さまざまな形式を取っています。

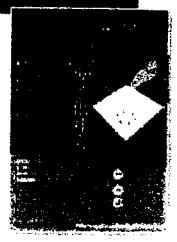
最近の活動例

CRN設立10周年記念国際シンポジウム
「子ども学から見た少子化社会〜東アジアの子どもたち〜」
〔日本 東京〕(2007年)

CRN設立10周年を記念し、東アジア各国共通の問題である「少子化」をテーマに子どもの未来を考える国際シンポジウムを開催しました。

出演者: 大江 健三郎(作家・ノーベル文学賞受賞)
　　 [illegible](工学博士・中国工程院院士)
　　 榊原 洋一(お茶の水女子大学 教授)
　　 李 根(梨花女子大学 教授)
　　 朴 正漢(テグ・カトリック大学 教授)
　　 周 念麗(華東師範大学 副教授)
　　 原田 正文(大阪人間科学大学 教授)

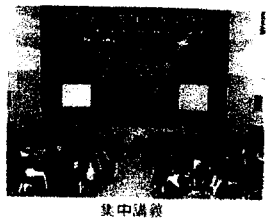


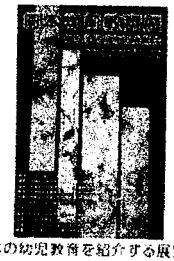


第1回 東アジア子ども学交流プログラム
〔中国 長沙〕(2007年)

子どもの成長・発達と生活環境について、日本と中国の共通点と相違点をお互いに学び合い、医学、発達心理学、教育学、社会学などを統合した子ども学の立場から、何をすべきかを考えました。

講演者: 小林 登(CRN所長・東京大学名誉教授)
　　 多田 千尋(おもちゃ美術館 館長)
　　 朱 家雄(華東師範大学学前教育研究所 所長)
　　 安梅 勅江(筑波大学 教授)
　　 榊原 洋 (お茶の水女子大学 教授)


集中講義


日本の幼児教育を紹介する展覧会

※CRNの活動は、随時サイト上で報告いたします。
※出演者・講演者は、順不同です。また、肩書きは2008年3月現在のものです。

2008年7月発行

CHILD RESEARCH NET

子ども学（Child Science）研究機関
チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）

ニュースレター

http://www.crn.or.jp

vol.1
創刊特別号

2・3・4面…活動報告　2007～2008年にかけて
5面…CRNを取り巻く学会の動向
6・7面…CRN編集室より　サイトおすすめ情報
8面…今後の活動予定

ニュースレター発刊にあたって

チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）は、設立13年目に入るにあたって、サイトリニューアルを行い、ニュースレターを発刊する事となった。この機会に、更に多くの方々にCRNの目指しているものを御理解頂き、より積極的にわれわれの活動への御参加をお願いしたいからである。

CRNのそもそもの始まりは、Norwegian Center for Child Research（ノルウェー国立子ども学研究センター）が1992年にベルゲンで開催した国際会議"Children at Risk"「危機にある子ども達」の終了後、出席した各国代表が集まって開かれた非公式の会合にある。そこで、1989年の国連で認められた「子どもの権利条約」を受け、21世紀に向けわれわれは何をすべきかが話し合われた。その結果、ともかくも世界の子ども問題に関心を持つ学者、研究者、実践者をインターネットでつないで、協力して考えようという事になったのである。

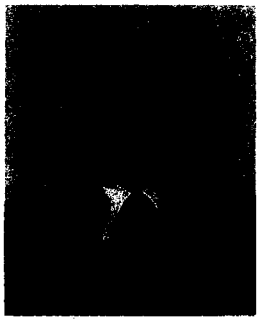
考えてみれば、これは北欧ならではのアイデアである。第1に、北欧の国々は子どもを大切にする国民性がある。例えば、スウェーデンのエレン・ケイは20世紀冒頭に「子どもの世紀」を発表しており、ノルウェーでは「子どもの日」と「憲法記念日」は同じ日であり、フィンランドでは戦後、子どもの包括的な医療・保健を目指す「子どもの城」を作った。その上、インターネットを利用するという、ITの発達した国、ノルウェーの発想そのものにも感銘を受ける。

1996年、国立小児病院を退官した機会に、この国際的な動きに対応すべく、ベネッセコーポレーション会長福武總一郎氏（当時は社長）にお願いして、会社の事業とは関係なく、中立的な研究機関としてCRNを立ち上げさせて頂いた。当初は日本語版と英語版であったが、2005年に中国語版が加わって、現在3つの言語で活動している。皆さん方の御支援のお蔭で、月間アクセス数は日本語版約50万、英語版、中国語版がそれぞれ約15万となっている。

あらためてここで、CRNの目指している事を整理してみたい。20世紀に、子どもに関係する問題を研究する学問は大きく進歩した。小児医学然り、小児心理学然り、小児行動学然り。しかし、問題解決となると、その多様性も関係すると思うが、まだまだである事は御存知の通り。それに対応するものと考えられるが、北欧の国々では1980年代末より"Child Research"、イギリスでは1990年代に入って"Child Studies"と、子どもに関係する学問を統合し、包括的、学際的、環学的に研究して、問題解決を図ろうとする動きが出てきた。私達はそれを「子ども学」"Child Science"とした。人間の生物的側面と社会的側面を併せて科学的に捉える「人間生物学」"Human Biology"、更には「人間科学」"Human Science"の子ども版とも言えよう。

CRNとしては、上述の学問的な立場を基盤にして、子どもに関心を持つ色々な専門家、実践家、研究者、更に親は勿論の事、出来るならば子ども達自身も加わって、皆が一同に会してネット上でまず話し合う事が目的である。そして、「子ども学」の立場から問題の検討を進め、その成果をCRNで発表したいと考えている。CRNはこの様にして、「21世紀こそ＜子どもの世紀＞に」したいと願っているのである。

関係の皆様方、どうぞ私達の意図を御理解頂き、一緒にわれわれの目的に向け進もうではありませんか。



Child Research Net 所長
小林 登

チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）とは？

[illegible]

活動報告 —2007～2008年にかけて

1 東アジア“子ども学”交流プログラム発足

東アジア“子ども学”交流プログラムは、2007年11月に発足し、今年2年目を迎えることとなります。第1回の開幕式と総会は2007年11月に中国で開催され、第2回は2008年4月に日本で開催されました。

■第2回活動報告
（2008年4月19日、20日　お茶の水女子大学）

★子どもの成長・発達と生活環境-子ども学的アプローチ-
小林登（CRN所長、東京大学名誉教授）、朱家雄（華東師範大学教授）、秦金亮（浙江師範大学杭州幼児師範学院院長）、黄紹文（長沙師範専科学校副教授）、内田伸子（お茶の水女子大学副学長）、榊原洋一（お茶の水女子大学教授）、山本登志哉（早稲田大学教授）、首藤美香子（お茶の水女子大学研究員）、一見真理子（国立教育政策研究所総括研究員）、一色伸夫（甲南女子大学教授）※名前は登壇順

第2回東アジア“子ども学”交流プログラムは、2008年4月19日、20日の2日間にわたって、チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）とお茶の水女子大学G-COEによる主催、ベネッセ次世代研究所による共催のもとで開催されました。

テーマは「子どもの成長・発達と生活環境ー子ども学的アプローチー」。子ども関連の研究者、お茶の水女子大学の学生、子どもに関心を持つ200名余りの方々が、足を運んでくださいました。

初日は、小林登CRN所長の挨拶に始まり、基調講演では華東師範大学の朱家雄先生が、最近日本で放映されて話題になったNHKスペシャル「小皇帝の涙」を中国人の立場から考察し、大変関心を集めました。そのほか、浙江師範大学の秦金亮先生は「発達認知神経科学研究の進展が幼児教育にもたらす意義」、長沙師範専科学校の黄紹文先生は「幼稚園教諭養成」についての発表を行い、中国での脳科学と幼児教育の研究および幼稚園教諭養成の現状について紹介しました。

2日目は日本の研究発表が中心となりました。早稲田大学の山本登志哉先生は「日中比較の中で見えてくる『文化としての子どもの発達』」、お茶の水女子大学の首藤美香子先生は「日中の子ども観・発達観・教育観へのアプローチ」、国立教育政策研究所の一見真理子先生は「幼児教育における日中関係史・比較史のスケッチ」というテーマで講演を行いました。日中文化・育児観の比較調査や中国の子ども観の歴史的な流れを踏まえながら、中国の幼稚園や小学校の映像とともに、日中子ども交流史にまで及ぶ幅広い研究と興味深い史料が数多く紹介されました。

2日間にわたり日中両国の研究者6名による講演と、それぞれの日の最後には日中の講演者全員によるシンポジウムが行なわれ、議論がさらに深められました。

どのような国についても、歴史や文化背景を無視して教育を語ることはできませんから、お互いの違いを知り、理解し、尊重しあい、学びあっていくことが大切です。「子ども学」という視点を共有することで、日中の研究者がさらに交流を深め、好ましい関係をつくり上げていくものと期待したいと思います。

「東アジア“子ども学”交流プログラム」
概　要

[illegible]

[illegible]

[illegible]

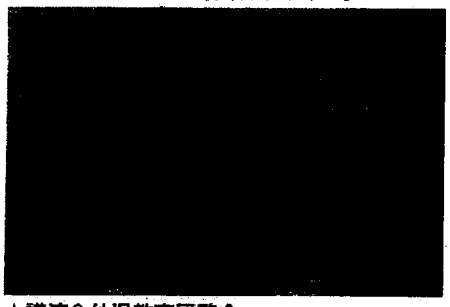
[illegible]

[illegible]

■開幕式と第1回活動報告
（開 幕 式 2007年11月12日　華東師範大学）
（第1回活動 2007年11月13日、14日　長沙師範専科学校）

★開幕式

2007年11月12日、上海華東師範大学にて、本プログラムの開幕式が行われました。華東師範大学学前教育研究所所長の朱家雄先生と小林登CRN所長の間で、調印式とテープカットの儀式が行われ、プログラムの長期的な継続のため、お互い協力していくことが約束されました。



★講演&幼児教育展覧会

小林登（CRN所長、東京大学名誉教授）、多田千尋（おもちゃ美術館館長）、朱家雄（華東師範大学教授）、安梅勅江（筑波大学教授）、榊原洋一（お茶の水女子大学教授）※名前は登壇順

2007年11月13日、14日、毛沢東の恩師が設立した長沙師範専科学校で日本幼児教育展覧会と日本の研究者より集中講義が行われました。「子ども学」の視点を踏まえて、5名の先生方が脳科学、医学、育児、遊びというテーマで、それぞれのご専門の立場から育児・保育・教育について論じました。

初日は、湖南省政府の要人、湖南省幼児教育委員会の幹部などが挨拶を行い、500名近くの幼児教育関係者が出席しました。小林登CRN所長は、情動の「子ども学」という題で、「生きる喜びいっぱい　Joie de Vivre 」は、子どもの心身発達にとって必須であると、脳科学の知見を織り込んだ講演を行いました。

学際的、総合的に子どものことを考える「子ども学」の理念に、中国の幼児教育の先生方から多くの賛同を得られました。

2日目は200名近くが出席し、日本からの先生方の講義＋演習、デモなどを交えてtwo-wayの交流を行ないました。講演期間中は、日本の幼児教育に関する展覧会も同時開催し、中国の幼児教育現場の先生方に、日本の幼児教育の歴史や玩具を知ってもらう良い機会となりました。

2 CRN設立10周年記念国際シンポジウム

★子ども学から見た少子化社会-東アジアの子どもたち-

大江健三郎（作家）、韋鈺（東南大学教授・中国）、榊原洋一（お茶の水女子大学教授）、李根（梨花女子大学教授・韓国）、朴正溪（テグ・カトリック大学教授・韓国）、周念麗（華東師範大学副教授・中国）、原田正文（大阪人間科学大学教授）※名前は登壇順

2007年2月3日、国連大学ウ・タントホールでCRN設立10周年記念国際シンポジウムが開催されました。シンポジウムのテーマは「子ども学から見た少子化社会ー東アジアの子どもたちー」。

この国際シンポジウムでは中国、韓国、日本3か国の学者により少子化社会の現状を踏まえた、子どもの成長、養育環境についての活発な議論がなされました。

午前中はノーベル賞作家の大江健三郎先生が、"子どもー「人間の未来」のモデル"をテーマに特別講演を行い、続けて中国前教育部副部長、東南大学教授韋鈺先生が「脳科学と教育」をテーマに基調講演を行いました。午後は「子どもの成育環境としての少子化社会を考えるー日中韓の研究を中心にー」というテーマで日中韓3か国の研究者がシンポジウムを開き、各国の子どもの視点からみた少子化の現状および背景と問題点について、エビデンスに基づいた討論が行われました。

このシンポジウムは、1996年に設立されたCRNの活動10周年を記念して開催しました。小林登CRN所長は講演者や参加者への謝辞の中で、これからの展望を以下のように示しました。「私は、Ellen Key の理想を追って、新しい意味で"21世紀こそ子どもの世紀"にする為、世界的なネットワークを作り、力を合わせて努力する事が重要であると、現在考えています。」

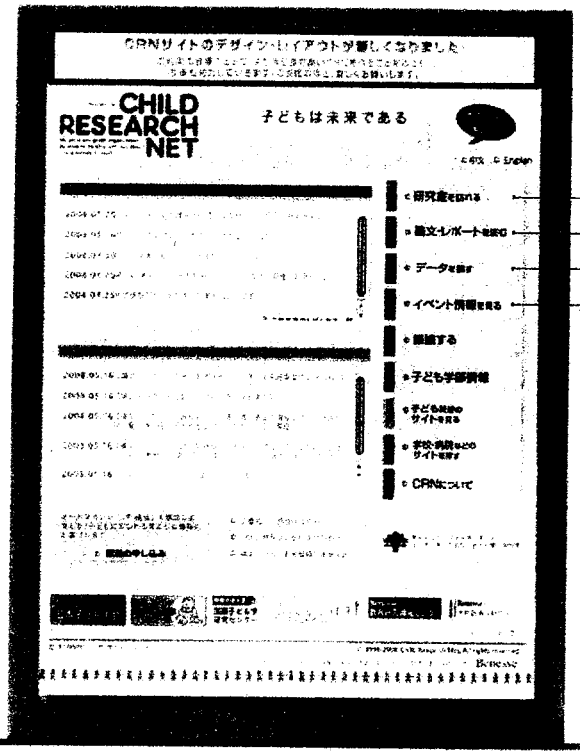
東アジア子ども交流プログラム及び国際シンポジウムの講演の詳細はCRNホームページの「イベント情報を見る」に掲載しています。そちらをご覧下さい。
http://www.crn.or.jp/LIBRARY/EVENT/sympo07/index.html

3 日本語版サイト リニューアルオープン！

2008年3月、CRN日本語サイトをリニューアルオープンしました。

過去13年の膨大なアーカイブを生かしつつ、「このサイトで何ができるかすぐ分かる」「知りたい情報にすぐたどり着ける」シンプルなサイトに生まれ変わりました。

リニューアル後のCRNをご紹介します！



研究室を訪れる

テーマごとに有識者が集まり、子どもに関する研究を進め、その成果をご覧いただけます。

研究テーマ例：「子どもとメディア」「ドゥーラ」「児童学＆子ども学」「ソーシャル・スキル・トレーニング」など

論文・レポートを読む

さまざまな分野の専門家による、子どもに関する論文・レポートをご覧いただけます。

連載中のコーナー：

「心のカルテ」（西焼津こどもクリニック院長　林隆博）、

「子ども達の理学療法の現場より」（びわこ学園医療福祉センター草津　理学療法士　高塩純一）

「教員のスキルアップで「落ちこぼれ」を救う」（アンダンテ西荻教育研究所代表　金子晴恵）

データを探す

子どもに関する調査データをご覧いただけます。

最近のデータ：

「第4回学習指導基本調査報告書（2008年発刊）」

「第3回子育て生活基本調査報告書（2008年発刊）」など

イベント情報を見る

子どもに関するイベントをご紹介。CRNが開催したイベントの実施報告もご覧いただけます。

これからも、多くの皆様にご利用いただけるよう、ユーザビリティの向上や内容の充実を図って参ります。今後ともCRNをよろしくお願い致します。

4 海外とのネットワーク強化！

CRNでは、異文化の子ども達との共通点・相違点を学び合うことで、子ども学を世界的に発展させていけると考え、英語版・中国語版のサイトを中心に海外とのネットワークを強化しています。

中国語圏では、前述の東アジア"子ども学"交流プログラム発足により、中国の研究機関・研究者と共に子どもについて考える体制を作ることができました。

英語圏では、ジョージ・ルーカス教育財団（The George Lucas Educational Foundation；略称GLEF）から発刊の雑誌"edutopia"と、サイト（http://www.edutopia.org/global-education-japan-research-net）で、世界中の子ども関連の活動を取り扱う記事の中で、日本の教育を代表してCRNならびに小林所長の"子ども学"での活動が紹介されました。

5 アクセスレポート

年間（2007年4月～2008年3月）ページ・ビュー数

日本語版　：　6,367,243pv
英　語　版　：　1,586,157pv
中国語版　：　702,878pv

CRNを取り巻く学会の動向

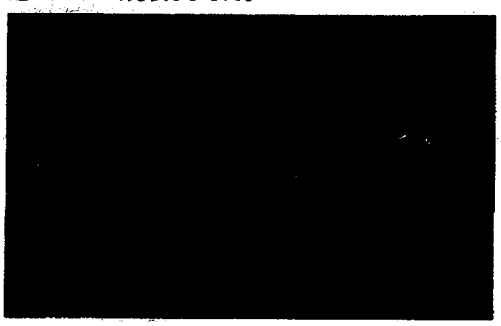
日本子ども学会

http://www.crn.or.jp/KODOMOGAKU

第4回子ども学会
テーマ：「子ども・進化・脳科学
生命の科学と子ども学」
大会推進委員長：安藤寿康先生（慶應義塾大学）
期日：2007年9月15日、16日
場所：慶應義塾大学三田キャンパス

初日……

基調講演1は長谷川眞理子先生（総合研究大学院大学）による「進化から見たヒトの子どものユニークさ」。続けて榊原洋一先生（お茶の水女子大学）、佐倉統先生（東京大学）、安藤寿康先生らが長谷川眞理子先生とともに、「ダーウィン先生を囲んで」というテーマで座談会を行いました。さらにシンポジウム1「進化の中の子ども」では、中村徳子先生（昭和女子大学）、デビット・スプレイグ先生（農業環境技術研究所）らが比較行動学的な視点から霊長類とヒトとの違いについて発表しました。



2日目……

基調講演2は小泉英明先生（日立製作所役員待遇フェロー）による「脳科学から見た子どもの教育」。シンポジウム2「危機と共に生きる子どものための科学」では、北澤茂先生（順天堂大学）、神山潤先生（東京北社会保険病院）、長谷川奉延先生（慶應義塾大学）らが子どもたちの成育環境をめぐる問題点について討議を行いました。また、高橋孝雄先生（慶應義塾大学）が「遺伝と環境によって育まれる子どもの脳」について、安藤寿康先生が「ふたごが明かす脳と行動の形成過程」について講演を行いました。

日本赤ちゃん学会

http://www.crn.or.jp/LABO/BABY

第7回学術集会
テーマ：「赤ちゃん研究は赤ちゃんに何を返せるか」
大会長：志村洋子先生（埼玉大学）
期日：2007年6月30日、7月1日
場所：大宮ソニックシティ（埼玉県さいたま市）

初日……

シンポジウム1では、林 安紀子先生（東京学芸大学）がオーガナイザーとなり、「初期の言語・コミュニケーション発達をうながすもの一対乳児ことば、音楽一」というテーマで馬塚れい子先生（理化学研究所）、武居渡先生（金沢大学）、二藤宏美先生（ヤマハ音楽研究所）らが、乳幼児のコミュニケーション活動などについて論じました。また、教育講演として、松沢哲郎先生（京都大学霊長類研究所）が「チンパンジー研究からヒト赤ちゃん研究へ」というタイトルで発表を行いました。

シンポジウム2では、根ヶ山 光一先生（早稲田大学）がオーガナイザーとなり、「脳研究は赤ちゃんに何をもたらすか」というテーマで、多賀厳太郎先生（東京大学）、鈴木健太郎先生（札幌学院大学）、近藤清美先生（北海道医療大学）、小山敦司先生（赤ちゃんとママ社）らが討議を行いました。

2日目……

シンポジウム3「赤ちゃんが乳児保育に求めているもの」では、榊原洋一先生（お茶の水女子大学）、松永静子先生（新井保育園）の二人がオーガナイザーとなり、汐見稔幸先生（白梅学園大学）、大日向雅美先生（恵泉女学園大学）、雲雀信子先生（NPO法人子育てサポート・チャオ代表）らが保育の現状について議論しました。

そのほか、日本赤ちゃん学会は、カナダ・トロント大学のサンドラ・トレハブ先生（Sandra Trehub）フロリダ州立大学のジェーン・スタンレー先生（Jayne Standley）を招いて、"赤ちゃんと音楽"をテーマに、「赤ちゃん学国際シンポジウム」「公開シンポジウム」などを開催しています。

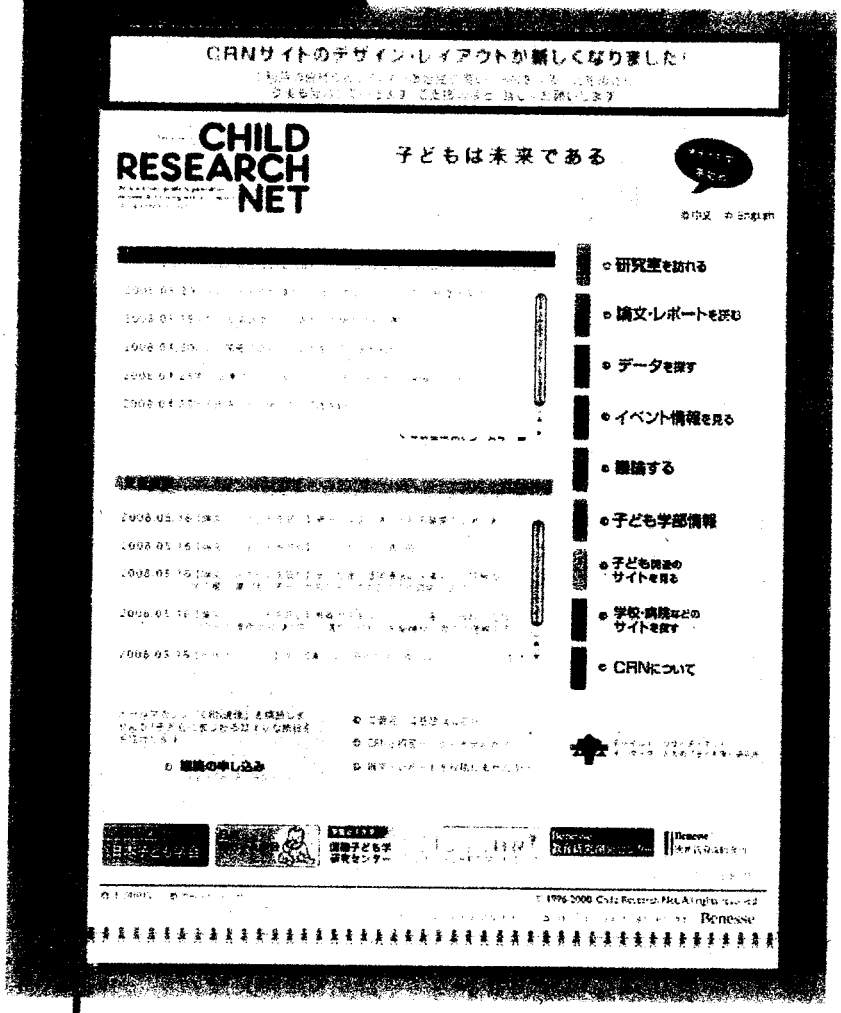
日本子ども学会も日本赤ちゃん学会も、学際的に子どもの発達や成育環境について探求する学会です。全体を統合する基礎学問が設定されているわけではありませんが、現在は脳神経科学、遺伝学、進化生物学、霊長類学、ロボット工学など、生物学系や認知科学系の学問が、多様な学問分野をつなぐ役割を果たしています。従来の人間科学には、文化的・社会的視点が欠けると言われましたが、現代の人間科学は精神的な営みも含めて総合的にヒトの独自性の解明にあたっています。今後もそのような子ども研究の流れはますます加速していくと思われます。

その一方で、子どもというのは研究対象というよりも、私たち大人とともに生きて、未来の社会を形作るパートナーであります。子どもたちの日常をどのように支援していくのか、子どもの基礎研究とともに、成育環境の向上につながる活動の必要性への自覚も高まっています。基礎的な子ども研究と成育環境の支援、その両輪のもとに今後の両学会の活動は展開されていくと思われます。

※CRNは両学会HPの運営をサポートしています。

CRN編集室より　サイトおすすめ情報

日本語版　http://www.crn.or.jp/



CRN日本語版は、13年間にわたるCRNの研究活動の成果、寄せられた論文やレポート、研究機関とのネットワーク、読者からの意見などが詰まったサイトです。子どもに関して、これほど学際的、国際的な知見がそろっているサイトは、ほかにないユニークな存在です。

情報はすべて無料で提供しておりますので、ぜひ一度、覗いてみてください。

CRNお勧めポイント

名立たる専門家による講演、寄稿論文・レポートを公開しています！

大江健三郎（作家・ノーベル文学賞受賞者）
【講演】「子ども―「人間の未来」のモデル」
（講演動画）http://www.crn.or.jp/LIBRARY/EVENT/sympo07/oe.html
（講演全文）http://www.crn.or.jp/LIBRARY/EVENT/sympo07/lecture/oe/index.html

CRN設立10周年記念のシンポジウムにて、特別講演をしていただきました。ご自身が出会ってきた忘れがたい言葉のご紹介、またご家族との生活の中で経験してきたことを小説「二百年の子供」に織り込まれたこと、そして最後に、子どもの未来、人間の未来に対するメッセージを語ってくださいました。

石井威望（東京大学名誉教授）
【レポート】少子化社会におけるIT技術
（レポート全文）http://www2.crn.or.jp/blog/report/02/post_47.html

日本のマルチメディアの第一人者が、IT技術の普及が影響を及ぼす、少子化時代の育児や教育について述べてくださいました。

そのほか多数、専門家の方々による貴重なお話を公開しており必見です。

耳寄りな情報を、CRN通信（メルマガ）でお届けします！

月1回（不定期）のペースで、子どもに関する耳よりな情報を「CRN通信」としてお届けしています。

講演会や勉強会の情報から、CRNの記事紹介、プレゼントがもらえるアンケートなど、読者にとってお得になる情報をお届けしています。ぜひご登録ください。

せひ、
CRN　子どもは未来である　検索
で検索してみてください！

定期（隔週）更新で、新鮮な情報をお届けします！

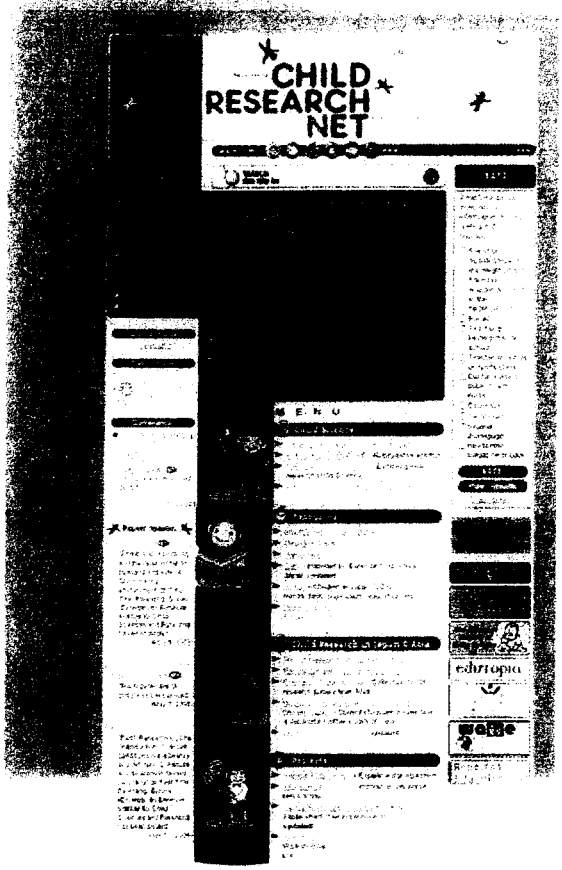
CRN日本語版は、金曜日（隔週）が更新日。1回の更新で、5～6つの記事を掲載しています。

また定期更新日以外にも、興味深い情報は、適宜トピックスで提供しています。いつ訪れていただいても、新鮮な情報をご覧いただけます。

13年にわたるアーカイブがあり、多岐にわたるテーマを研究できます！

13年目を迎えたCRNでは、取り扱ったテーマ、ご協力くださった研究者は、数え切れないほどです。そのすべてをアーカイブとして無料で公開しております。子どもに関することなら、これまでの蓄積を活用して、何らかのヒントを提供できると思っております。知りたい時、困った時、CRNにアクセスしてみてください。

英語版 http://www.childresearch.net



CRN英語版サイトは、子どもをめぐる問題の多くは国や地域を超えて共通しているという認識に立ち、情報発信・情報収集の拠点としての役割を担っています。国内外の研究者やCRNアドバイザリーボードメンバーからのレポート、シンポジウムや講演会の記録、最新のテーマなど質の高い情報がそろっています。

CRNお勧めのコンテンツ

Monthly Articles on Children

CRNスタッフや研究者が交代で担当するコーナー。最近論議を呼んでいる問題や講演会の報告など、子どもに関する話題を様々な視点から取り上げています。

Data

ベネッセコーポレーションによる調査データを紹介しています。「妊娠出産のアンケート」や「教育に関する6カ国比較」など、子どもに関する最新の情報が得られます。

Research Papers

各国の研究者による専門的な論文が一般の方にも気軽にお読みいただけるページです。

Teens' Photo Project

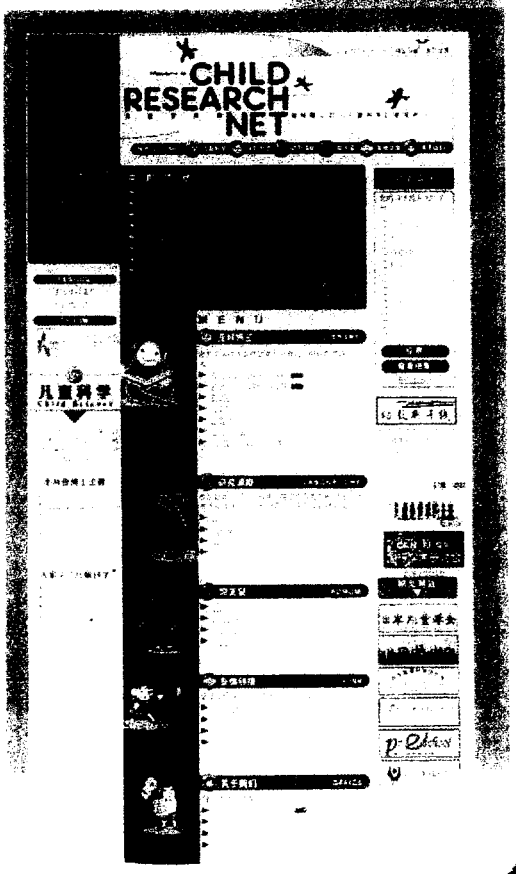
子ども達自身による写真を通して、調査や研究レポートからは見えてこない子ども達の姿をお届けします。

メルマガ（英文）のご登録

月に1度発行するメルマガで、好評配信中です。サイトの更新情報やCRN活動情報をタイムリーにお届けしています。

http://www.crn.net.cn/ 中国語版

CRN中国語版サイトは中国国内の育児・保育・教育に関心のある方向けに作られています。日本や海外情報の紹介、中国独自の取り組み、CRNの活動などを紹介しています。



CRNお勧めのコンテンツ

予防接種

中国では、母子手帳のかわりに、予防接種手帳があります。ワクチンの種類が多い上、任意のものも多く、親にとって悩みの種です。このコーナーでは、予防接種に関する基礎知識や最新情報を定期更新しています。

宝宝健康成長

子どもが健やかに成長していくための親の悩み解決コーナー。病気や栄養のことを中心に解説しています。

学前教育論文

中国学前教育研究会の機関誌に掲載されているレベルの高い学術論文を数多く掲載します。このコーナーを読むだけでも、中国の幼児教育の主な動きが分かります。

海外の幼児教育紹介

日本を中心に、海外の幼児教育情報を紹介しています。

メルマガ（中文）のご登録

隔週に発行するメルマガで、好評配信中です。サイトの更新情報やCRN活動情報をタイムリーにお届けしています。

今後の活動予定

1 東アジア子ども学交流プログラム 第3回 中国実施

・日程：　2008年11月
・場所：　中国　浙江師範大学杭州幼児師範学院

2008年4月に開催した第2回のシンポジウムでは、子どもの成長・発達と生活環境について、非常に興味深い議論になりましたが、秋には、さらにそれを掘り下げていく所存です。

詳細が決まりましたら、CRNホームページにて掲載いたします。

2 日・英・中 3サイト それぞれ隔週で定例更新

各サイトとも、2週間に1回の更新で、常に新鮮な情報をご提供いたします。

また、月1回の頻度で、特別な情報をお届けするメルマガを発行しております。ぜひご登録ください。（登録無料）

アンケートにご協力ください！

2008年9月30日

論文・レポート・エッセイ 投稿募集中！

これまでの活動

1996年・日本語・英語サイトオープン
　・シンポジウム「マルチメディア社会の子ども達」

1997年・シンポジウム「中高生のデジタルな友達づくり」
　・ジェーン・グドール博士講演会
　　「チンパンジーの世界と自然のお話」
　・ジェイ・ベルスキー博士講演会
　　「子どもの発達と家族研究」

1998年・国際シンポジウム
　　「メディアは子どもをどう育てるのか？」
　・ジェーン・グドール博士講演会
　　「チンパンジーと自然のお話」
　・CRNサイト「WEBデザインアワード」銀賞受賞

1999年・公開座談会
　　「学級崩壊はしつけでくいとめられるのか？」
　・プレイショップ「CRN国際プレイショップ99」

2000年・公開座談会「『学校』と『家庭』を結ぶもの」
　・プレイショップ「Feel the Media」
　・国際シンポジウム「21世紀の子育てを考える」

2001年・プレイショップ「ふゆものがたり
　　～プレイフルストーリーをつくろう」など
　・研究拠点「ながやまチーきち」開設（～2002年）
　・音のワークショップ（～2003年）

2002年・CRN 実践保育研修会
　　「保育の質を考える?心とからだを育む視点から」
　・プレイショップ「カラフル王国であそぼう」など
　・「子ども学研究会」発足（～2003年）

2003年・「日本子ども学会」設立
　・「メディアキッズワークショップ」（～2005年）

2004年・「第1回子ども学会議」（「日本子ども学会」学術集会）
　・チャイルド・サイエンス懸賞エッセイ　スタート
　・中国の子ども研究機関を訪問（中国 北京）

2005年・中国語サイトオープン
　・「第2回子ども学会議」（「日本子ども学会」学術集会）
　・宋慶齢基金会の招聘を受け小林所長が講演
　　（中国 上海）

2006年・子どもの健康に関する学会にて
　　「食育」をテーマに分科会を開催（中国 長春）
　・「第3回子ども学会議」（「日本子ども学会」学術集会）
　・中国政府主催のシンポジウムにて小林所長が講演
　　（中国 上海）

2007年・CRN設立10周年記念国際シンポジウム
　　「『子ども学』からみた少子化社会」
　・「第4回子ども学会議」（「日本子ども学会」学術集会）
　・第1回　東アジア子ども学交流プログラム開幕式
　　（中国 上海）
　・第1回　東アジア子ども学交流プログラム集中講義・
　　幼児教育展覧会開催（中国 長沙）

2008年・日本語サイトリニューアルオープン
　・第2回　東アジア子ども学交流プログラム集中講義
　　（日本 東京）

2008/07/31

チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）
〒101-8685　東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビル16F
（株）ベネッセコーポレーション 内
TEL：03-3295-0293　FAX：03-5577-8420

後藤 春子

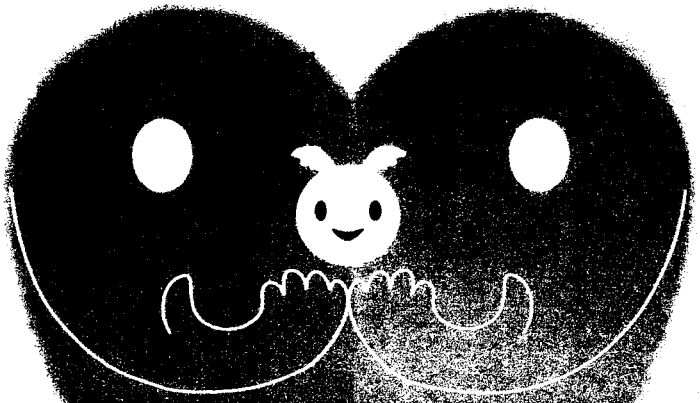
松本 留奈　劉 愛華　岩崎 美穂子
木下 眞（木下編集事務所）

古関 敦子（スフィア）

子育てのスタイルは発達にどう影響するのか

乳幼児1364人を
7年間にわたり追跡調査
米国NICHD

CRNは
「社会による子育て」を
研究しています



SYMPOSIUM
REPORT

CRN国際シンポジウム2000
21世紀の子育てを考える
の
報告